

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 17名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870105693
事業所名	グループホームひめ椿
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏 名	浅井 晴夫
自己評価作成日	令和2年1月6日

【事業所理念】 ・居心地の良い「家」にいるような雰囲気づくりを！ ・失われた能力を引き出せるよう、自立支援の手助けを行う ・向上心を持って生活できるような場を提供していく ・地域との交流を図り、人と人とのふれあいを大切にする	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 事業所の目標として利用者の目線に立ったケアとし、自由に行き来できる様、玄関の施錠はしていない、職員各々も以前に比べて利用者の立場になって考えて対応できるようになってきた。 災害への備えとして新しい災害マニュアルを作成し周知している、消防訓練も年2回行えている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人の1～3月の標語「肯定の言葉ひとつに笑顔あり 今日実感！ 尊厳の介護」を掲げ、職員は日々の支援に取り組んでいる。職員は努力してサービスを提供する過程で利用者の笑顔が多くなっていることを実感している。訪問日も利用者が大好きな野球チームのファンになったきっかけから現在に至るまでを時間をかけて語ってくれ、職員はささげることなく微笑みながらを双方を見守ってくいた。職員は利用者のできること・できそうことに着目し具体的な計画を立て、利用者の自立支援に取り組んでいる。職員の聞き取りからは「利用者一人ひとりを理解して支援したい」「流れ作業はしたくない」「利用者ここにきてよかったと思ってもらえるように」との言葉が聞かれ、真摯に業務に臨む姿勢が感じられた。管理者も交代して不慣れな中、サービス担当責任者と協力しながら利用者本位の支援に取り組む熱血を十分に感じることができた。
--	---	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者個人より希望、意向を聞いたり、職員間での情報交換により把握に努めている	○	/	○	日常生活の中から職員は言葉をささげらないようにゆっくり話すことで、利用者の思いや希望を聞いている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族より意向をお聞きしたり、生活歴を知るなど本人の視点に立って把握できる様努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族面会時に本人の希望・意向をお聞きし職員のケア向上に協力して頂いている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	個人記録や送りノートを利用し職員間で共有している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	常に職員間で情報を共有し、本人の表情や言葉を見落とさない様努めている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族に生活歴アンケートを記入して頂いたり、可能であれば直接本人より伺っている	/	/	○	初回面接時に利用者や家族から情報を得るとともに、生活歴アンケート用紙(生活歴・毎日の習慣・好きな食べ物・音楽・テレビ・嫌いな事…)に細かく記入してもらい、職員はこれまでの暮らしや現状を把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	しっかり様子観察・記録を行い有する力の新たな発見や保持していきたい事を把握する様努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の表情や言葉に留意し、24時間シートに記入する事で本人の状態を把握できる様努めている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人の日々の様子観察をする事で変化を見逃す事のない様、また声掛けなど対応の仕方を工夫している	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間シートや個人記録を行う事で状態の把握に努めている	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント (※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ユニット会で介護目標を作り、それが達成できているか等のモニタリングを定期的に行っている	/	/	○	ユニット会議やカンファレンス等で話し合い、介護日誌も参考にしながら利用者の視点に立った支援を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会や日々の場面場面で職員で話し合ったり、又本人・家族に伺い、より良い支援ができる様努めている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会で本人に沿ったニーズになっているか検討している	/	/	/	

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	できるだけ本人の思いや意向に沿えるよう検討・見直しを行っている				職員は利用者や家族から要望を聞き、目標達成可能な課題を取り上げ、個別的で具体的な介護計画が作成されている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族との連携や看護師・医師への報告や助言を得るなど本人がより良く暮らしていける様環境構築に努めながら作成を行っている	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人が少しでも喜んで頂ける様、欲張ることのなく達成できそうな内容になる様努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	月1回の便りや面会時に近況報告を行い場合によっては他科受診の協力をお願いしている				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画に沿ったケアに心がけており職員間で把握・共有できている			○	利用者個人ファイルに綴じ、ユニット会議で利用者一人ひとりの計画を理解し、職員間で共有している。サービス内容に番号を付け記録しやすいよう工夫している。支援経過記録には具体的な記録が少ないが特記事項には利用者のそのままの言葉や職員とのやり取りが記載されていることがある。職員の気づき等は口頭での申し送りが多い。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	個人記録を行い、朝・夕の申し送りで情報共有したりユニット会で検討・見直しをし、日々より良い支援ができる様努めている			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	特変事には特に個人記録に詳細に記録している			△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	職員間で口頭でいろんなアイデアを出し合っているが、申し送りノートに記載しているのみで個別にはできていない			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	カンファレンスを実施し状態に応じて見直しを行っている			○	基本6か月ごとに見直しを行っている。毎月のユニット会議でサービスの実施状況を職員全員で確認し、入退院を含め利用者の状態に変化が生じた場合にはその都度見直しを行い、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回のユニット会にて各自のアセスメントを行い現状確認を行っている			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院、レベルの低下など状態が変化した段階でプランの見直しを行い現状に適したプランを作成している			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のユニット会にて、職員間で課題を持ち寄り話し合って解決に努めている			○	日々の申し送りや毎月のユニット会議、カンファレンス等で話し合いを持っている。会議には基本的に職員全員が参加となっている。緊急案件がある場合にはその都度対応している。参加できなかった職員には口頭での伝達と会議録を確認し内容を把握している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員全員が落ち着いて話し合いができる様実施時刻を遅くしたり、個々の顔が見れるような場作りを行っている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全ての職員が参加できる様落ち着いた時間帯に行っている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	不参加の職員はユニット会議録に目を通し、又職員が口頭で伝えていく			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝・夕の申し送りや申し送りノートを活用する事で共有を図っている			○	朝夕の申し送りや申し送りノート、生活記録に記載し、職員間で共有できる仕組みづくりをしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	申し送りノートの活用や重要な情報、又家族への報告等は、日勤者が責任を持って伝達を行うようにしている	○			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	意思疎通困難な方が大半を占めており、一部の方に関しては、可能な限り努力を行っている				いくつかの中からおやつを選んだり新聞や雑誌を手にとったり、動きたい時に行動するなど、職員は利用者が自己決定できるよう支援している。法人の月間標語に掲げる「言葉一つに笑顔あり」という言葉を職員は重視して支援するなど、利用者の笑顔が多くなっていることを実感している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定が可能な方には機会や場を設けて行っている			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	個々のわかる力に合わせた支援を行えるよう掛けているが納得されているか確認しにくい事が多々ある				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	出来る限り本人のペースを尊重しているが、意思表示が不可能な人に関しては排泄リズムを把握した上で個々にケアを行っている食事・入浴は時間・曜日が決まっている				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	家族からの情報や生活歴を把握することで本人をよく知り言葉がけの個別化など工夫している			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	言動や表情を注意深く観察し出来る限り本人の思いをくみ取れる様努めている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	本人の生きてきた歴史に対し敬う心を忘れず言葉がけや態度に気を付けて行動している	○	◎	○	職場内研修で勉強する機会を持ったり、法人の1～3月と月間標語を「尊厳の介護」と掲げ、利用者一人ひとりを大切に行動できるよう努めている。時々、職員と利用者は馴れ合いになって、あからさまな声かけになることもあり、管理者は改善すべき点であると反省していた。特に男性利用者は本人の希望で居室の戸は閉めずに開放している部屋が多いため、出入りの際には職員の配慮が不十分である。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	あからさまな介護や誘導の声掛けをしない様に努めているが改善すべき点もあり十分とはいえない			△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時・入浴時には不安を与えないような声掛けやプライバシー等に配慮しながら介助を行っている				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	日中居室で過ごされている方が殆どおられないが、入室時にはノックや声掛けを行っている			△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報記載の書類は決まった場所で管理し職員間で理解し遵守している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員が利用者に洗濯たたみなどをお願いしたり、昔にお話を聞き、いろんなことを教えて頂いたりして、互いに助け合い感謝し合うことができている				利用者個人が注文しているスポーツ新聞を借りに行ったり、昼ごはんの誘いの声かけをしたりするなど、利用者同士や職員と良好な関係が築かれている。不穏な状態の利用者がいる場合には、速やかに職員が間に入り、利用者同士のトラブルを未然に防いでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	大切さは理解できているが、個々のレベルが異なっている為共存していく難しさも痛感している				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し孤立した利用者に対しては集団レクリエーションを行い、楽しみ・喜びを共有して頂く事で孤独を感じる事のない様に努めている			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が速やかに間に入り、お互いの話を聞くなどのケアを行い不安や支障のないようにしている				

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントシートやケアマネからの情報を得たり、可能であれば本人から聞き把握に努めている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	アセスメントシートや家族からの情報や、可能であれば本人から聞き把握に努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	一部の方のみ家族の協力のもと実現されているが大半の方は職員が馴染みの場所や名前など会話を通じて忘れることのない様支援を行っている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室にご案内し居心地よく過ごしていただける様な環境づくりに努めている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	気候の良い日に中庭に散歩に行く程度で職員の業務の都合に合わせ決定させて頂いている	○	○	△	職員のシフト体制により利用者と一緒に散歩に出かけることもあるが、利用者の希望に添う支援はできていない。重度な利用者にもベランダに出て外気を浴びるよう努めているが頻度は少ない。重度な利用者を含め一日一回を目標に、一人ずつからでも出かけられるような取組みを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	行えていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	頻度は少ないが体調を配慮しながらお花見や紅葉など四季の風景を楽しんでいただける様に取り組んでいる			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	一部の方は家族の協力のもと行われているが利用者全員としては行事での外出のみである				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員は認知症の勉強会に参加し、また一人一人の変化を見逃すことのない様努め、職員で共有しケアの方法を話し合っている				字の上手な利用者にはイベント時の看板を書いてもらったり、こぼしても自分で食事を摂ってもらったりするなど、職員はできること・できそうことは見守りながら、少しでもできることを増やす支援に取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	ラジオ体操やレクリエーションを行って、個別では歩行練習など行うなど身体面の機能低下防止に努め日常生活の中で自然に維持・向上が図れる様取り組んでいる				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	個々の能力に応じて、無理強いせず気長に見守るなど残存能力を少しでも維持できるように取り組んでいる	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	情報を基に本人の趣味や、お手伝いなど楽しみ事や有する力を把握し支援している				モップ掛けや居室に飾ってある植物の水やり、洗濯物を入れて置むなど、職員は利用者の得意なこと、好きなことを生活の中に活かせるよう場面づくりを行っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	個々の有する力や残存能力を引き出しつつ、得意なことや好きなことを活かして役割や出番を作るなど張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	日常的ではないが地域の方を交えた行事に参加し楽しんで頂く				

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	本人に好みや希望をお聞きし、その人らしい身だしなみやおしやれができる様支援している				利用者は起床すると髪をとかしたり、髭を剃ったりして身だしなみを整えている。職員は必要に応じモーニングケアや髭剃りの剃り残し、服の乱れがないかさり気なく観察している。おしやれな女性利用者に首にはスカーフが巻かれ、自分らしい身だしなみができている。重度な利用者も家族の協力を得ながら、本人らしさを保てる髪型や服装にする配慮をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	可能な限り本人の希望に沿った支援に努めている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員間で話し合い、できる限り本人の希望や好みに沿えるよう支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節や用途に合ったものを本人、又は職員間で相談して身に着けて頂くよう支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	モーニングケア、髭剃り・整髪はできる方はご自身で行って頂くよう声掛けを行っている、食べこぼしなどの周囲の汚れはその都度声掛けし、清潔を保っている	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理容を利用しており、外部への希望はない				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族、又は本人に希望をお聞きし、その人らしさが保てる支援を行っている				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	摂取する事だけではなく、盛り付け方や色彩に工夫し、楽しく食事をして頂ける様努めている				献立は法人の栄養士が作成しており、栄養に偏りがないようバランスのとれたメニューを利用者に提供している。台拭きやモヤシの根切りなど、できる利用者は手伝っている。訪問日にはちらし寿司やそうめん汁、かぼちゃ煮など利用者に好まれるメニューとなっていた。茶碗・箸・コップは利用者本人が使用する物が決まっており、軽量であったり片手で持ちやすい食器を選んだりするなど工夫されていた。見守り重視のため職員は利用者と時間をずらし食事を摂っている。重度な利用者もリビングに出て食事することで、雰囲気を楽しむことができている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立は管理栄養士が立てており食材は提携店より届いている、もやしの根切など簡単な作業は利用者にお手伝いして頂いてる			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	食材の下ごしらえのみ一部の方にお手伝いして頂き「ちゃんとできてる？」など笑顔を見せて頂けている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族やアセスメントシートからの情報や本人の日頃の食事の様子、言動などで把握する様努めている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	献立は管理栄養士が行っている、毎月1日は小豆ご飯、夏はソーメン秋はサンマお正月はおもちなど旬の食材を取り入れている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりとや器の工夫等)	○	個々の状態に応じて、食事形態を変更しており、ミキサー食であってもできるだけ食材の種類がわかる工夫をしたり、メニューに合わせて食器を変えるなど楽しんで頂けるように努めている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個々の状態に応じて取っ手のついた湯飲み汁碗を使用している方もいる			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	外食以外は一緒に食事を摂る事を行っていないが、見守りや食事介助・声掛けなどのサポートを行っている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングやキッチンに近いのにおいや音を感じて頂き、又献立や食材をお伝えすることで楽しみにして頂ける様な雰囲気づくりに努めている	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事・水分の摂取量は個々に応じて確保できているか把握しており摂取が困難な方には代替品を提供している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	好みのものを提供したり、時間をずらすなど工夫しており、又摂取困難な方場合は管理栄養士に助言を得たり、看護師に報告し医師の指示により点滴などの医療的処置が行われている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	管理栄養士がバランスよく偏りのない献立を立てている、調理についてはよりおいしく作る方法を職員間で話し合うこともある			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材の鮮度や賞味期限をチェックし調理器具の消毒・乾燥や手洗いの徹底に努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会や研修で学んでおり理解している、必要時には仕上げ介助を行い誤嚥性肺炎の防止に努めている				職員は自分で口腔ケアができ、異常時に訴えのある利用者の口腔内確認は行っていない。毎食後、自力や介助で口腔ケアを行い、利用者の清潔保持に努めている。歯科医の往診が可能で、職員は利用者の異常を把握した場合は早急に往診を依頼している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に観察し、虫歯や義歯に不具合があれば歯科受診・往診をしている			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	ケア方法を学ぶ機会がない				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	汚れの有無を確認し就寝前に洗浄剤を使用するなど清潔保持に努めている、必要時には声掛け・介助を行っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	声掛け・見守りを行いながらできる限り本人にして頂いている、必要に応じて仕上げ介助を行い清潔を保てるように支援している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	家族に報告し、受診して頂くか、往診を依頼するなどの対応を行っている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ほとんどの方がオムツを使用しているが、可能な限りトイレで排泄を行えるよう、声掛けや排泄のリズムの把握に努め利用者の尊厳を損なわない様対応に努めている				日中はトイレの排泄を基本としているが、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。職員は利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、パッドや紙パンツ等の使用する際はアセスメントを行い決定している。適正な支援を行い、入居時の紙パンツから現在布パンツに変更できた利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	食事量・水分量や睡眠、日中の活動量を把握し本人の不快感について十分に配慮している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	その都度記録し排泄リズムの把握に努め、意思表示が可能な方については、その方独自の言葉やしぐさを把握するよう努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々の状態を把握しユニット会で見直しを行い一人一人の状態にあった支援をしている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	本人の様子観察を怠らず、職員で話し合ったり看護師の助言を得るなど改善に向けた取り組みを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄リズムの把握や、しぐさ、下剤服用の有無などを考慮し失敗を防ぐための早めの声掛けや誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	外出時や夜間帯などシーンに応じて使い分けしている、又本人や家族に以降を伺い納得していただけるものを選択している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	職員間で話し合いを行い一人一人の状態に合わせて適時使い分けをしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	十分な水分摂取や運動を促したり、腹部マッサージや温あん法を施すなど自然排便を促す取り組みを行っている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間帯を予め決めてはいるが、体調、気分によって変更することもある、湯の温度や長さは本人の希望に沿えるよう努めている	◎		△	入浴日は決まっており、利用者から毎日の入浴希望には応じにくい現状である。入る順番や湯温、入浴時間、洗身の順番など、職員はできるだけ利用者の意向に沿うよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	長さや温度は本人に沿って行っている、又会話を楽しむなどくつろいで入浴できるよう支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	無理強いすることなく可能な範囲でできる力を活かせるような声掛け、見守りを行っている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けのタイミングを考慮したり時間をずらすなど行い気持ちよく入浴できるよう支援している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタル測定を行い入浴の可否を見極め入浴後に特変がないか留意している				

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	24時間シートに記録し把握に努めている				日中の活動(レクリエーション・ラジオ体操・個別運動等)内容を検討しながら、職員は利用者の安眠につながるよう支援している。眠剤を服用している利用者については、医師と相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	レクリエーションを行ったり、体操や散歩を促して日中活動量を増やすことでスムーズな睡眠がとれるよう工夫している				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	日々の生活リズムを話し合い、安眠に導ける方法を試みているが、医師に報告・相談の上、服用されている方もいる			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	体調や状態に応じて居室で休んで頂ける様にしており、リビングにソファを置き、気軽に休息できるようにしている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	一部の方は携帯電話を所持しており利用されているが大半の方は自ら要望されることがない				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	字を書いてくださる方には手紙を書いてみるように勧めてみることもあるが、書くこととされない方がほとんどだった				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	自室にて気兼ねなく電話できるよう配慮している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に直接渡したり居室の壁に貼るなど常に本人が見やすいように工夫している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人の希望があれば家族にご理解ご協力をお願いしたいと思っているが、今のところはない				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	所持をされる方がおらず、全員、小口預かり金として施設がお預かりしている				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	外食時や地域の夏祭りなどの際に買い物を楽しんで頂いているが日常的にはできていない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	そのような機会を作る支援ができていない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	本人、特に家族からの希望がなく、異食リスクがある方もおられるなどで全員施設がお預かりしている、必要に応じて家族に購入をお願いするか、職員が代行することもある				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	必要時その都度家族に連絡しており、又月1回領収書と出納長のコピーを送付し報告している				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入所の際管理者が説明を行い同意を得ている、入金時には現金預かり証を双方が管理し、月1回領収書と出納長のコピーを送付している				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	訪問マッサージや訪問理容、必要時には他科受診に付き添うなど柔軟なサービスの提供に取り組んでいる	◎		○	訪問理容、訪問マッサージ、病院受診、買い物など利用者や家族の要望に応じて、職員は柔軟に対応している。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門を開放し玄関も解錠しており気軽に出入りできる	◎	◎	◎	日中は表門が開放されており、玄関入口にアプローチとしてベンチを置き、車いすスロープが設けられている。敷地内駐車場に自販機が設置され、近隣住民も利用するなど敷地内に気軽に入ることができる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうような設えになっていないか等。）	○	リビングにはテレビ・ソファを設けたり、季節の花々を生けるなど家庭的な雰囲気づくりに努めている玄関には家庭にあるような靴箱を置いている	○	○	○	リビングにはテーブルやソファ席があり、対面キッチンからは職員がくつろぐ利用者を見守ることができる。壁には、ひな祭りの飾りや行事写真、利用者作の塗り絵、書初めなどが飾られてある。共用空間は整理整頓され、加湿器を置いたり生け花が活けられたりしている。事業所の窓からは田んぼや畑が見ることができ、職員は利用者に季節を感じてもらいながら居心地よく過ごせるよう配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、遮光カーテンを利用し太陽の日差しを調整したり換気にも努めている				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を生けたり行事の写真（夏祭り・初詣など）季節に応じた飾りつけをするなど生活感・季節感を感じていただけるような工夫をしている				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでは気の合う利用者同士で同じテーブルに着いて交流されたり、又廊下の隅にもソファを設置しお一人でも過ごせるような工夫をしている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	直接見えない構造になっておりドアは必ず閉めるようにしている				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた家具・仏壇・寝具などを使って頂いたり、居室に写真や本人の手作りの物を飾るなど居心地よく過ごせるような工夫をしている	◎		○	居室はタンスや整理ラック、いす、時計、テレビ、自宅で手入れしていた植物、夫婦写真、大好きなプロ野球チームのグッズなど、愛着のある物や大切な物が持ち込まれ、生活感のある部屋づくりとなっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	バリアフリーで手すりを設置しており安全に過ごせるようになっている、又居室入り口に表れをつけたりトイレの表示を行うなど分かやすい工夫をしている			○	建物内には手すりを取り付けられ廊下も広く、利用者の歩行の妨げとなる障がいとなる物は置かれていない。居室やトイレの表示を利用者に分かりやすくして、生活しやすい工夫をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険なものは本人の目に触れないように配慮し、個人の物には必ず名前を記入している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	新聞や本をいつでも読める様手元に置いたり棚に並べている、事故につながるようなものは職員が管理している				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	防犯上、夜間のみ玄関の施錠を行っている、居室や上下ユニットへの出入りは自由にできている	○	○	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の施錠はしておらず出入りは自由となっている。事業所は住宅街に立地していることから、防犯の意味でカメラを設置している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	施錠をしないことのリスクはあるが、利用者が安全かつ自由に過ごせるよう見守りや声掛けに努めている、今のところ施錠を望まれる家族はいない				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	不穏な言動をされる方への観察・察知に心がけている、又外出傾向になる原因を把握できる様努めている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントシートを読み、家族やケアマネからの情報などから留意事項を把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	状態の変化や異常のサインがない常に観察しており特変が見られた場合はバイタルチェックを行っている、場合によっては医療連携を行い記録に残し職員で共有している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	24時間医療連携を行っている為何か特変があれば速やかに報告し、指示を仰いでいる				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	これまでの受診状況やかかりつけ医の有無を把握し要望があれば希望する医療機関に受診できるよう支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望するかかりつけ医と連携し、本人の状態・様子を伝えるなど、適切な医療を受けられるように支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	職員が受診対応した際は必ず家族に報告しており、納得を頂ける様努めている				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーを作成しそれ以外にも本人が望むことや好む事気を付ける事等の特記し、情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係と密に連絡を取ったり、入院中にも病院へ出向き話を聞くなどして情報を得ている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	かかりつけ医については、機会があれば会話をするなど、日頃から関係づくりの向上に努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護師訪問の際に気づいたことや、疑問に思う事があれば報告しアドバイスを得ている、場合によってはかかりつけ医より指示を受けた看護師から医療処置を受けることもある				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでも連絡が取れ、相談できる体制ができており、看護師からかかりつけ医への連携も確立している				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	記録や申し送りなどで情報を共有し、又特変事には速やか状態をに報告するなど早期発見・治療に努めている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬情書をに目を通し把握に努めている、疑問点があれば薬剤師に聞くなど、理解に努めている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬の一包化により指示通りに服薬できるようになっている、服薬時には職員2人で確認を行い、服薬後は薬ケースをチェックするなど、誤薬・飲み忘れ防止に努めている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の状態や、効果を観察し副作用がもたらす症状を記録に残し、薬剤師や看護師に報告している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	血圧が上昇したことや、眠りが深くなったことなど本人の状態の経過や変化を記録し看護師・医師に報告・相談を行い家族にも報告している				

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に本人・家族の意向をお聞きしている。又状態変化の段階ごとに都度話し合いを行い納得していただいたうえで次の段階への準備(情報提供)のお声掛けをしている				重度化した場合には、ほとんどの利用者が併設の介護老人保健施設に移ってもらっているが、直近で1名の看取り支援を行っている。家族の要望に沿い、医師や職員と検討しながら方針を共有することで、家族に納得してもらえる支援となったようである。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化していく中で本人・家族に意向をお聞きした上で、管理者、ケアマネが看護師、かかりつけ医に報告し相談しながら方針を決定している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	ユニット会で職員の各々の思いを共有しあった上で、管理者は見極めを行っている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に管理者、ケアマネが十分な説明を行っている、又重度化していく段階で都度話し合いを行い、理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期に関して、家族の意向を踏まえたうえでかかりつけ医との連携を取りながら、本人に沿った医療ケアが受けられるよう日頃より管理者、ケアマネが他施設との関係構築に努めている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いや状況もそれぞれであり、慎重に対応する事を心掛け又少しでも支えになれる様努めている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に勉強会に参加し学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	勉強会で予防や対応の仕方を学び、又感染予防マニュアルに職員全員が目を通して日頃からの訓練は行っていない				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	職員や利用者は全員が予防接種を受けている。ニュースや医療機関、職員から情報を入手し把握に努めている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報入手に努め感染者などに対しては居室対応を厳守し、面会制限を行うなど家族に協力を得ている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがいを徹底しており、来訪者にはマスク着用手指アルコール消毒の協力を得ている、又面会制限にて感染予防の拡大防止に努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には家族の様子や思いに耳を傾け、家族と一緒に支えていける関係を構築できるように努めている				毎年恒例の納涼祭には家族や地域住民の参加がある。年間行事の外出や外食などに家族が参加することもある。遠方の家族を含め毎月「便り」を発行し、担当職員から利用者の様子をコメント欄に記入して送付している。事業所の事柄は十分報告できていないところもあり、今後は気をつけたいと管理者は認識している。家族から気がかりなことや意見等が気軽に相談できるよう、職員は声かけや雰囲気づくりを大切にしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	不愉快な思いをされる事のない様、気持ちの良い対応や本人と居室で居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや環境整備に努めている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	内容に応じて参加の声掛けや、月1回の便りで案内を行っている	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月1回便りを送付し、本人の近況報告を行っている、又疎遠になっている家族には便りや電話にて来訪のお願いをしている	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話をかけた際、家族の思いをお聞きするなど家族が思いを伝えやすくなるような信頼関係が築けるように努めている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人の状態の変化の様子を都度報告し理解して頂いた上で、本人とより良い関係を続けられるよう、絆や繋がりを大切に思っている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事については便りや面会時に報告しているが、面会に来られた家族に口頭で伝えている	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	夕涼みやお花見などの行事参加への案内はしているが、不参加の方が多く家族同士の交流は図れていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	一人一人に起こり得るリスクについて、家族に説明しており、本人が安心、安楽に暮らせるよう話し合っている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族来訪時に近況を報告し、気軽に相談していただける様な言葉がけや雰囲気作りに努めている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	管理者が具体的な説明を行っている、内容変更の際も理解、納得が得られるよう説明を行っている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居に至った過程を具体的に説明し理解、納得を得た上で退居先に移れるよう支援している、又必要時には情報提供を行っている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	管理者が説明を行い同意を得ている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を通じて説明を行い理解を図っている	/	○	/	地域の防災訓練や夏祭りに参加して、近隣住民から「お世話になった」とお礼に手作りのパンをもらうこともあるなど交流が深まっている。納涼祭には事業所から屋台などの出店をするなど、子どもたちにも好評となっている。散歩時には積極的に挨拶を交わすなど、職員は地域とのつながりができるよう努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	地域の防災訓練や夏祭りに参加したり、又夏祭りでは屋台を出すなど地域との関係が深まる様努めている、挨拶を積極的に行っている	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	挨拶を交わす程度である	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	施設の夕涼み会の時、地域の人に声掛けし参加して頂いている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	祭りに参加した時や戸外の散歩時に言葉を交わしているが、日常的なお付き合いはできていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	地域の夏祭りや防災訓練への参加のご案内を頂いたり秋祭りには施設まで神輿や獅子舞を見せて下さり楽しませて頂いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	民生委員や町内会の方の協力を頂きながら、安全で豊かで、楽しみのある暮らしを提供できるように努めている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	地域の防災訓練に参加したり、同一法人施設と合同行事を行っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	町内会の方や民生委員、地域包括や行政の方、利用者やその家族に参加して頂いている	×	/	△	運営推進会議には町内会の住民や民生委員、利用者、家族の参加を得て開催しているが、固定した家族の参加となっている。会議はおやつの試食会などを取り入れる工夫をしながら開催しており、外部評価や目標達成計画などの取組み状況を報告し、参加者から意見や感想をもらえるよう努めている。今後は他の家族にも会議の内容を職員から分かりやすく説明を行い、理解を得ながらより良い会議になるような取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	利用者の現状や施設状況、行事報告を行っている、又外部評価の内容や取り組み状況についても報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地域の方や包括行政の方の意見を参考に、日々の取り組みやサービスの向上に活かし状況や結果を報告している	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出席しやすい日程や時間帯を考慮し予定を立てているテーマによっては同一法人施設の管理者等に参加を案内することもある	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	作成し施設内に提示している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	「地域との交流」を理念の一つとして挙げ各自が理解し実践に繋がる様日常的に取り組んでいる				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を伝えることはできていないが入居前の説明で地域密着であるという説明は行っている	×	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	月1回、法人内研修を行い、参加を促しており、又法人内研修については、同一法人施設より情報を得たり自己研鑽に任せている				代表者は往診で頻回に事業所を訪れており、気さくな人柄で利用者と一緒にレクリエーションを楽しむこともある。職員の有給休暇や夏季・冬季休暇、希望休など取り入れ、働きやすい環境づくりに努めている。職員は年1回ストレスチェックを行い、自分のストレス度を確認している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修で得た知識やスキルを実践したり指導する事で職員がスキルアップできるように努めている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境や条件の整備について、定期的に見直しをし各自が向上心をもって働ける様努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	同一法人内の交流が殆どで外部の研修に参加できていないのが現状である				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスチェックテストを実施し管理者や職員のより良環境づくりに取り組んでいる	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会に参加して学んだり、職員で相互チェックを行うなど虐待や不適切なケアのない様努めている				管理者は不適切な言動がある場合には、その都度職員を注意するようにしている。法人の内部研修で勉強する機会を持ち、職員は不適切なケア等に対する対応方法や手順について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	都度話し合ったり、ユニット会で職員全員で振り返ったり話し合いをしている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員一人一人が気を付け、又相互チェックを行い虐待や不適切なケアが見逃ごされない様努めている			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスチェックテストを実施したり、管理者は職員の疲労やストレスが利用者のケアに影響していないか日常的に職員の言動に注意を払っている				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会に参加して学んだり身体拘束適正化委員会に全職員が参加し事例を基に話し合い正しく理解できる様努めている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ユニット会で利用者や状況に照らし合わせながら身体拘束にならないように話し合っている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から要望があっても事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫を行っていることを説明し理解を図っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	成年後見制度については対象者がおりある程度理解できているが全てではない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	対象の方がおられ管理者・ケアマネが対応している、今後情報提供や相談に乗れるよう知識を深める様努めていきたい				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要な利用者には主に管理者が弁護士との連携を築いている				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し事務室に置いており緊急時に備えている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	勉強会で学んでいるが定期的訓練は行えていない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書ヒヤリハットを提出し職員全員が目を通して、ユニット会にて原因を探り検討し再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ユニット会で利用者一人一人から予想されるリスクや危険について検討し事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情対応マニュアルは作成しておらず都度管理者に報告し対応・方法について検討している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	速やかに管理者に報告し対応行い必要時には行政にも報告している、家族からの苦情については職員間で話し合い改善努めている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して速やかに回答できる様職員間で話し合い納得を得られるよう相手の方にお伝えし、より良い関係になれる様努めている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	要望・苦情を直接お聞きしたり、日々の中での言葉や表情態度からくみ取り改善できるよう話し合っている			○	利用者には日常生活の中で要望を聞き、家族には面会時に意見や要望を遠慮なく伝えてもらえるよう、職員から声をかけ、雰囲気づくりに努めている。管理者も現場に出て働いており、職員とその都度話し合う機会が多く、ユニット会議でも意見を聞いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に意見箱を設置し、要望苦情を伝えやすい様になっている、又面会時に要望をお聞きし改善に努めている	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入居時に苦情に関する公的な窓口の説明を行っているのみである				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	平日のほぼ毎日当事業所に来られており意見や要望を直接聞く機会があり、必要時職員が直接訴えることもある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の都合ではなくどうしたら利用者第一の支援をしていけるのかその都度、又はユニット会で話し合いを行っている			○	

愛媛県グループホームひめ樟

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2階自己評価を実施し各々の改善向上に繋げている				運営推進会議の中で、外部評価の結果を報告しているが、目標達成計画などの取組み状況を継続的に報告できていない。どうすればモニターとして機能するのか職員間で話し合い、運営に活かせるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題の改善・解決に向けて職員間で意識統一を図っているが、改善しがたい点もある				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	達成に向けて取り組もうと努めているがなかなか達成に至っていない				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	運営推進会議にて報告を行っているが継続して行っていない	×	△	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	評価結果、改善計画、指摘事項については報告しているが成果については議題にして行っていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	原子力災害以外はマニュアルを作成し周知している				法人事業所合同で年2回消防署立ち合い訓練と自主訓練を行っている。運営推進会議でテーマに取り上げ、家族と一緒に訓練に参加してもらったり、地域の防災訓練に参加したりして交流できるよう努めている。今後は事業所独自でも災害に対する危機感を持ち、地域住民等と日頃から連携が図られるような協力・支援体制の強化を期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	日中か夜間想定での訓練は行っているが様々な時間帯を想定した訓練の計画はできていない				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備については定期的に点検を行っているが備蓄品については同法人の管理に任せている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	同法人が地域との連携協定を結んでおりそれに従っている、又消火・防災訓練については消防署から指導を頂いている	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の防災訓練に参加し、災害対策に取り組んでいる				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議にて感染症対策や当事業所のケアの取り組みについてお話しさせて頂き認知症についての理解が深まる様努めている				事業所の見学希望者の相談に対応することがあるが、特に相談支援は行っていない。地域の夏祭りや清掃活動に参加しているが、事業所として機能が果たせていない感がある。今後は事業所独自で各機関と積極的に関わりを持ち、地域活動を協働できるような取組みを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	入居相談時には対応している		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	当事業所の夕涼み会に地域の方の参加を募り交流の場として活用している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	当事業所では行っていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	管理者・ケアマネは連携が取れているが一般介護職は行えていない			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

Ⅰ.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

Ⅱ.家族との支え合い

Ⅲ.地域との支え合い

Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年2月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 17名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870105693
事業所名	グループホームひめ椿
(ユニット名)	もみじ
記入者(管理者)	
氏 名	浅井 晴夫
自己評価作成日	令和2年1月6日

【事業所理念】 ・居心地の良い「家」にいるような雰囲気づくりを！ ・失われた能力を引き出せるよう、自立支援の手助けを行う ・向上心を持って生活できるような場を提供していく ・地域との交流を図り、人と人とのふれあいを大切にする	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 事業所の目標として利用者の目線に立ったケアとし、自由に行き来できる様、玄関の施錠はしていない、職員各々も以前に比べて利用者の立場になって考えて対応できるようになってきた。 災害への備えとして新しい災害マニュアルを作成し周知している、消防訓練も年2回行えている。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 法人の1～3月の標語「肯定の言葉ひとつに笑顔あり 今日も実感！ 尊厳の介護」を掲げ、職員は日々の支援に取り組んでいる。職員は努力してサービスを提供する過程で利用者の笑顔が多くなっていることを実感している。訪問日も利用者が大好きな野球チームのファンになったきっかけから現在に至るまでを時間をかけて語ってくれ、職員はささげることなく微笑みながらを双方を見守ってくいた。職員は利用者のできること・できそうことに着目し具体的な計画を立て、利用者の自立支援に取り組んでいる。職員の聞き取りからは「利用者一人ひとりを理解して支援したい」「流れ作業はしたくない」「利用者ここにきてよかったと思ってもらえるように」との言葉が聞かれ、真摯に業務に臨む姿勢が感じられた。管理者も交代して不慣れな中、サービス担当責任者と協力しながら利用者本位の支援に取り組む熱血を十分に感じることができた。
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者個人より希望、意向を聞いたり、職員間での情報交換により把握に努めている	○		○	日常生活の中から職員は言葉をささげらないようにゆっくり話すことで、利用者の思いや希望を聞いている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族より意向をお聞きしたり、生活歴を知るなど本人の視点に立って把握できる様努めている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族面会時に本人の希望・意向をお聞きし職員のケア向上に協力して頂いている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	個人記録や申し送りノートを利用し職員間で共有している				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	常に職員間で情報を共有し、本人の表情や言葉を見落とさない様努めている				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族に生活歴アンケートを記入して頂いたり、可能であれば直接本人より伺っている			○	初回面接時に利用者や家族から情報を得るとともに、生活歴アンケート用紙(生活歴・毎日の習慣・好きな食べ物・音楽・テレビ・嫌いな事…)に細かく記入してもらい、職員はこれまでの暮らしや現状を把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	しっかり様子観察・記録を行い有する力の新たな発見や保持していきたい事を把握する様努めている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の表情や言葉に留意し、24時間シートに記入する事で本人の状態を把握できる様努めている				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人の日々の様子観察をする事で変化を見逃す事のない様、また声掛けなど対応の仕方を工夫している				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間シートや個人記録を行う事で状態の把握に努めている				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ユニット会で介護目標を作り、それが達成できているか等のモニタリングを定期的に行っている			○	ユニット会議やカンファレンス等で話し合い、介護日誌も参考にしながら利用者の視点に立った支援を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会や日々の場面場面で職員で話し合ったり、又本人・家族に伺い、より良い支援ができる様努めている				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会で本人に沿ったニーズになっているか検討している				

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	できるだけ本人の思いや意向に沿えるよう検討・見直しを行っている				職員は利用者や家族から要望を聞き、目標達成可能な課題を取り上げ、個別적으로具体的な介護計画が作成されている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族との連携や看護師・医師への報告や助言を得るなど本人がより良く暮らしていける様環境構築に努めながら作成を行っている	○		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人が少しでも喜んで頂ける様、欲張ることなく達成できそうな内容になる様努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	月1回の便りや面会時に近況報告を行い場合によっては他科受診の協力をお願いしている				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画に沿ったケアに心がけており職員間で把握・共有できている			○	利用者個人ファイルに綴じ、ユニット会議で利用者一人ひとりの計画を理解し、職員間で共有している。サービス内容に番号を付け記録しやすいよう工夫している。支援経過記録には具体的な記録が少ないが特記事項には利用者のそのままの言葉や職員とのやり取りが記載されていることがある。職員の気づき等は口頭での申し送りが多い。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	個人記録を行い、朝・夕の申し送りで情報共有したりユニット会で検討・見直しをし、日々より良い支援ができる様努めている			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子（言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等）や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	特変事には特に個人記録に詳細に記録している			△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	職員間で口頭でいるんなアイデアを出し合っているが、申し送りノートに記載しているのみで個別にはできていない			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	カンファレンスを実施し状態に応じて見直しを行っている			○	基本6か月ごとに見直しを行っている。毎月のユニット会議でサービスの実施状況を職員全員で確認し、入退院を含め利用者の状態に変化が生じた場合にはその都度見直しを行い、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月1回のユニット会にて各自のアセスメントを行い現状確認を行っている			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入退院、レベルの低下など状態が変化した段階でプランの見直しを行い現状に適したプランを作成している			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のユニット会にて、職員間で課題を持ち寄り話し合って解決に努めている			○	日々の申し送りや毎月のユニット会議、カンファレンス等で話し合いを持っている。会議には基本的に職員全員が参加となっている。緊急案件がある場合にはその都度対応している。参加できなかった職員には口頭での伝達と会議録を確認し内容を把握している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員全員が落ち着いて話し合いができる様実施時刻を遅くしたり、個々の顔が見れるような場作りを行っている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全ての職員が参加できる様落ち着いた時間帯に行っている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	不参加の職員はユニット会議録に目を通し、又職員が口頭で伝えていく			○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝・夕の申し送りや申し送りノートを活用する事で共有を図っている			○	朝夕の申し送りや申し送りノート、生活記録に記載し、職員間で共有できる仕組みづくりをしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。（利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等）	○	申し送りノートの活用や重要な情報、又家族への報告等は、日勤者が責任を持って伝達を行うようにしている	○			

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	意思疎通困難な方が大半を占めており、一部の方に関しては、可能な限り努力を行っている				いくつかの中からおやつを選んだり新聞や雑誌を手にとったり、動きたい時に行動するなど、職員は利用者が自己決定できるよう支援している。法人の月間標語に掲げる「言葉一つに笑顔あり」という言葉を職員は重視して支援するなど、利用者の笑顔が多くなっていることを実感している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定が可能な方には機会や場を設けて行っている			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	個々のわかる力に合わせた支援を行えるよう掛けているが納得されているか確認しにくい事が多々ある				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	出来る限り本人のペースを尊重しているが、意思表示が不可能な人に関しては排泄リズムを把握した上で個々にケアを行っている食事・入浴は時間・曜日が決まっている				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	家族からの情報や生活歴を把握することで本人をよく知り言葉がけの個別化など工夫している			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	言動や表情を注意深く観察し出来る限り本人の思いをくみ取れる様努めている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	本人の生きてきた歴史に対し敬う心を忘れず言葉がけや態度に気を付けて行動している	○	◎	○	職場内研修で勉強する機会を持ったり、法人の1～3月と月間標語を「尊厳の介護」と掲げ、利用者一人ひとりを大切に行動できるよう努めている。時々、職員と利用者は馴れ合いになって、あからさまな声かけになることもあり、管理者は改善すべき点であると反省していた。特に男性利用者は本人の希望で居室の戸は閉めずに開放している部屋が多いため、出入りの際には職員の配慮が不十分である。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	あからさまな介護や誘導の声掛けをしない様に努めているが改善すべき点もあり十分とはいえない			△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時・入浴時には不安を与えないような声掛けやプライバシー等に配慮しながら介助を行っている				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	日中居室で過ごされている方が殆どおられないが、入室時にはノックや声掛けを行っている			△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報記載の書類は決まった場所で管理し職員間で理解し遵守している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	職員が利用者に洗濯たたみなどをお願いしたり、昔にお話を聞き、いろんなことを教えて頂いたりして、互いに助け合い感謝し合うことができている				利用者個人が注文しているスポーツ新聞を借りに行ったり、昼ごはんの誘いの声かけをしたりするなど、利用者同士や職員と良好な関係が築かれている。不穏な状態の利用者がいる場合には、速やかに職員が間に入り、利用者同士のトラブルを未然に防いでいる。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	△	大切さは理解できているが、個々のレベルが異なっている為共存していく難しさも痛感している				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を把握し孤立した利用者に対しては集団レクリエーションを行い、楽しみ・喜びを共有して頂く事で孤独を感じる事のない様に努めている			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が速やかに間に入り、お互いの話を聞くなどのケアを行い不安や支障のないようにしている				

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントシートやケアマネからの情報を得たり、可能であれば本人から聞き把握に努めている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	アセスメントシートや家族からの情報や、可能であれば本人から聞き把握に努めている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	一部の方のみ家族の協力のもと実現されているが大半の方は職員が馴染みの場所や名前など会話を通じて忘れることのない様支援を行っている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室にご案内し居心地よく過ごしていただける様な環境づくりに努めている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	気候の良い日に中庭に散歩に行く程度で職員の業務の都合に合わせ決定させて頂いている	○	○	△	職員のシフト体制により利用者と一緒に散歩に出かけることもあるが、利用者の希望に添う支援はできていない。重度な利用者にもベランダに出て外気を浴びるよう努めているが頻度は少ない。重度な利用者を含め一日一回を目標に、一人ずつからでも出かけられるような取組みを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	行えていない				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	頻度は少ないが体調を配慮しながらお花見や紅葉など四季の風景を楽しんでいただける様に取り組んでいる			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	一部の方は家族の協力のもと行われているが利用者全員としては行事での外出のみである				
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員は認知症の勉強会に参加し、また一人一人の変化を見逃すことのない様努め、職員で共有しケアの方法を話し合っている				字の上手な利用者にはイベント時の看板を書いてもらったり、こぼしても自分で食事を摂ってもらったりするなど、職員はできること・できそうことは見守りながら、少しでもできることを増やす支援に取り組んでいる。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	ラジオ体操やレクリエーションを行って、個別では歩行練習など行うなど身体面の機能低下防止に努め日常生活の中で自然に維持・向上が図れる様取り組んでいる				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	個々の能力に応じて、無理強いせず気長に見守るなど残存能力を少しでも維持できるように取り組んでいる	○		○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	情報を基に本人の趣味や、お手伝いなど楽しみ事や有する力を把握し支援している				モップ掛けや居室に飾ってある植物の水やり、洗濯物を入れて畳むなど、職員は利用者の得意なこと、好きなことを生活の中に活かせるよう場面づくりを行っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	個々の有する力や残存能力を引き出しつつ、得意なことや好きなことを活かして役割や出番を作るなど張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	日常的ではないが地域の方を交えた行事に参加し楽しんで頂く				

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	本人に好みや希望をお聞きし、その人らしい身だしなみやおしやれができる様支援している				利用者は起床すると髪をとかしたり、髭を剃ったりして身だしなみを整えている。職員は必要に応じモーニングケアや髭剃りの剃り残し、服の乱れがないかさり気なく観察している。おしやれな女性利用者に首にはスカーフが巻かれ、自分らしい身だしなみができている。重度な利用者も家族の協力を得ながら、本人らしさを保てる髪型や服装にする配慮をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	可能な限り本人の希望に沿った支援に努めている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員間で話し合い、できる限り本人の希望や好みに沿えるよう支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節や用途に合ったものを本人、又は職員間で相談して身に着けて頂くよう支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	モーニングケア、髭剃り・整髪はできる方はご自身で行って頂くよう声掛けを行っている、食べこぼしなどの周囲の汚れはその都度声掛けし、清潔を保っている	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理容を利用しており、外部への希望はない				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	家族、又は本人に希望をお聞きし、その人らしさが保てる支援を行っている				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	摂取する事だけではなく、盛り付け方や色彩に工夫し、楽しく食事をして頂ける様努めている				献立は法人の栄養士が作成しており、栄養に偏りがないようバランスのとれたメニューを利用者に提供している。台拭きやモヤシの根切りなど、できる利用者は手伝っている。訪問日にはちらし寿司やそうめん汁、かぼちゃ煮など利用者に好まれるメニューとなっていた。茶碗・箸・コップは利用者本人が使用する物が決まっており、軽量であったり片手で持ちやすい食器を選んだりするなど工夫されていた。見守り重視のため職員は利用者と時間をずらし食事を摂っている。重度な利用者もリビングに出て食事することで、雰囲気を楽しむことができています。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	献立は管理栄養士が立てており食材は提携店より届いている、もやしの根切など簡単な作業は利用者にお手伝いして頂いてる			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	食材の下ごしらえのみ一部の方にお手伝いして頂き「ちゃんとできてる？」など笑顔を見せて頂いている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	家族やアセスメントシートからの情報や本人の日頃の食事の様子、言動などで把握する様努めている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	献立は管理栄養士が行っている、毎月1日は小豆ご飯、夏はソーメン秋はサンマお正月はおもちなど旬の食材を取り入れている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	個々の状態に応じて、食事形態を変更しており、ミキサー食であってもできるだけ食材の種類がわかる工夫をしたり、メニューに合わせて食器を変えるなど楽しんで頂けるように努めている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	個々の状態に応じて取っ手のついた湯飲み汁碗を使用している方もいる			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	外食以外は一緒に食事を摂る事を行っていないが、見守りや食事介助・声掛けなどのサポートを行っている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングやキッチンが近いのにおいや音を感じて頂き、又献立や食材をお伝えすることで楽しみにして頂ける様な雰囲気づくりに努めている	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事・水分の摂取量は個々に応じて確保できているか把握しており摂取が困難な方には代替品を提供している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	好みのものを提供したり、時間をずらすなど工夫しており、又摂取困難な方場合は管理栄養士に助言を得たり、看護師に報告し医師の指示により点滴などの医療的処置が行われている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	管理栄養士がバランスよく偏りのない献立を立てている、調理についてはよりおいしく作る方法を職員間で話し合うこともある			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材の鮮度や賞味期限をチェックし調理器具の消毒・乾燥や手洗いの徹底に努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	勉強会や研修で学んでおり理解している、必要時には仕上げ介助を行い誤嚥性肺炎の防止に努めている				職員は自分で口腔ケアができ、異常時に訴えのある利用者の口腔内確認は行っていない。毎食後、自力や介助で口腔ケアを行い、利用者の清潔保持に努めている。歯科医の往診が可能で、職員は利用者の異常を把握した場合は早急に往診を依頼している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に観察し、虫歯や義歯に不具合があれば歯科受診・往診をしている			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	ケア方法を学ぶ機会がない				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	汚れの有無を確認し就寝前に洗浄剤を使用するなど清潔保持に努めている、必要時には声掛け・介助を行っている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。 (歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	声掛け・見守りを行いながらできる限り本人にして頂いている、必要に応じて仕上げ介助を行い清潔を保てるように支援している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	家族に報告し、受診して頂くか、往診を依頼するなどの対応を行っている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ほとんどの方がオムツを使用しているが、可能な限りトイレで排泄を行えるよう、声掛けや排泄のリズムの把握に努め利用者の尊厳を損なわない様対応に努めている				日中はトイレの排泄を基本としているが、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。職員は利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、パッドや紙パンツ等の使用する際はアセスメントを行い決定している。適正な支援を行い、入居時の紙パンツから現在布パンツに変更できた利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	食事量・水分量や睡眠、日中の活動量を把握し本人の不快感について十分に配慮している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	その都度記録し排泄リズムの把握に努め、意思表示が可能な方については、その方独自の言葉やしぐさを把握するよう努めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々の状態を把握しユニット会で見直しを行い一人一人の状態にあった支援をしている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	本人の様子観察を怠らず、職員で話し合ったり看護師の助言を得るなど改善に向けた取り組みを行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄リズムの把握や、しぐさ、下剤服用の有無などを考慮し失敗を防ぐための早めの声掛けや誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	外出時や夜間帯などシーンに応じて使い分けしている、又本人や家族に以降を伺い納得していただけるものを選択している				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	職員間で話し合いを行い一人一人の状態に合わせて適時使い分けをしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	十分な水分摂取や運動を促したり、腹部マッサージや温あん法を施すなど自然排便を促す取り組みを行っている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	曜日や時間帯を予め決めてはいるが、体調、気分によって変更することもある、湯の温度や長さは本人の希望に沿えるよう努めている	◎		△	入浴日は決まっており、利用者から毎日の入浴希望には応じにくい現状である。入る順番や湯温、入浴時間、洗身の順番など、職員はできるだけ利用者の意向に沿うよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	長さや温度は本人に沿って行えている、又会話を楽しむなどくつろいで入浴できるよう支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	無理強いすることなく可能な範囲でできる力を活かせるような声掛け、見守りを行っている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けのタイミングを考慮したり時間をずらすなど行い気持ちよく入浴できるよう支援している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にバイタル測定を行い入浴の可否を見極め入浴後に特変がないか留意している				

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	24時間シートに記録し把握に努めている				日中の活動(レクリエーション・ラジオ体操・個別運動等)内容を検討しながら、職員は利用者の安眠につながるよう支援している。眠剤を服用している利用者については、医師と相談しながら支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	レクリエーションを行ったり、体操や散歩を促して日中活動量を増やすことでスムーズな睡眠がとれるよう工夫している				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	日々の生活リズムを話し合い、安眠に導ける方法を試みているが、医師に報告・相談の上、服用されている方もいる			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	体調や状態に応じて居室で休んで頂ける様にしており、リビングにソファを置き、気軽に休息できるようにしている				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	一部の方は携帯電話を所持しており利用されているが大半の方は自ら要望されることがない				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	字を書いてくださる方には手紙を書いてみるように勧めてみることもあるが、書くことと書かない方がほとんどだった				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	自室にて気兼ねなく電話できるよう配慮している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に直接渡したり居室の壁に貼るなど常に本人が見やすいように工夫している				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人の希望があれば家族にご理解ご協力をお願いしたいと思っているが、今のところはない				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	所持をされる方がおらず、全員、小口預かり金として施設がお預かりしている				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	外食時や地域の夏祭りなどの際に買い物を楽しんで頂いているが日常的にはできない				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	そのような機会を作る支援ができていない				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	本人、特に家族からの希望がなく、異食リスクがある方もおられるなどで全員施設がお預かりしている、必要に応じて家族に購入をお願いするか、職員が代行することもある				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	必要時その都度家族に連絡しており、又月1回領収書と出納長のコピーを送付し報告している				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入所の際管理者が説明を行い同意を得ている、入金時には現金預かり証を双方が管理し、月1回領収書と出納長のコピーを送付している				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	訪問マッサージや訪問理容、必要時には他科受診に付き添うなど柔軟なサービスの提供に取り組んでいる	◎		○	訪問理容、訪問マッサージ、病院受診、買い物など利用者や家族の要望に応じて、職員は柔軟に対応している。

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門を開放し玄関も解錠しており気軽に出入りできる	◎	◎	◎	日中は表門が開放されており、玄関入口にアプローチとしてベンチを置き、車いすスロープが設けられている。敷地内駐車場に自販機が設置され、近隣住民も利用するなど敷地内に気軽に入ることができる。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごような設えになっていないか等。）	○	リビングにはテレビ・ソファを設けたり、季節の花々を生けるなど家庭的な雰囲気づくりに努めている玄関には家庭にあるような靴箱を置いている	○	○	○	リビングにはテーブルやソファ席があり、対面キッチンからは職員がくつろぐ利用者を見守ることができる。壁には、ひな祭りの飾りや行事写真、利用者作の塗り絵、書初めなどが飾られてある。共用空間は整理整頓され、加湿器を置いたり生け花が活けられたりしている。事業所の窓からは田んぼや畑が見ることができ、職員は利用者に季節を感じてもらいながら居心地よく過ごせるよう配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除を行い、遮光カーテンを利用し太陽の日差しを調整したり換気にも努めている				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激（生活感や季節感を感じるもの）を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を生けたり行事の写真（夏祭り・初詣など）季節に応じた飾りつけをするなど生活感・季節感を感じていただけるような工夫をしている				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでは気の合う利用者同士で同じテーブルに着いて交流されたり、又廊下の隅にもソファを設置しお一人でも過ごせるような工夫をしている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	直接見えない構造になっておりドアは必ず閉めるようにしている				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた家具・仏壇・寝具などを使って頂いたり、居室に写真や本人の手作りの物を飾るなど居心地よく過ごせるような工夫をしている	◎		○	居室はタンスや整理ラック、いす、時計、テレビ、自宅で手入れしていた植物、夫婦写真、大好きなプロ野球チームのグッズなど、愛着のある物や大切な物が持ち込まれ、生活感のある部屋づくりとなっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	バリアフリーで手すりを設置しており安全に過ごせるようになっている、又居室入り口に表れをつけたりトイレの表示を行うなど分かりやすい工夫をしている			○	建物内には手すりが取り付けられ廊下も広く、利用者の歩行の妨げとなる障がいとなる物は置かれていない。居室やトイレの表示を利用者に分かりやすくして、生活しやすい工夫をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険なものは本人の目に触れないように配慮し、個人の物には必ず名前を記入している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。（ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等）	○	新聞や本をいつでも読める様手元に置いたり棚に並べている、事故につながるようなものは職員が管理している				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット（棟）の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。（鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等）	◎	防犯上、夜間のみ玄関の施錠を行っている、居室や上下ユニットへの出入りは自由にできている	○	○	○	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の施錠はしておらず出入りは自由となっている。事業所は住宅街に立地していることから、防犯の意味でカメラを設置している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	施錠をしないことのリスクはあるが、利用者が安全かつ自由に過ごせるよう見守りや声掛けに努めている、今のところ施錠を望まれる家族はいない				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している（外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等）。	○	不穏な言動をされる方への観察・察知に心がけている、又外出傾向になる原因を把握できる様努めている				

項目 No.	評価項目	小 項目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントシートを読み、家族やケアマネからの情報などから留意事項を把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	状態の変化や異常のサインがない常に見守り観察しており特変が見られた場合はバイタルチェックを行っている、場合によっては医療連携を行い記録に残し職員で共有している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	24時間医療連携を行っている為何か特変があれば速やかに報告し、指示を仰いでいる				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	これまでの受診状況やかかりつけ医の有無を把握し要望があれば希望する医療機関に受診できるよう支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望するかかりつけ医と連携し、本人の状態・様子を伝えるなど、適切な医療を受けられるように支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	職員が受診対応した際は必ず家族に報告しており、納得を頂ける様努めている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーを作成しそれ以外にも本人が望むことや好む事気を付ける事等の特記し、情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院関係と密に連絡を取ったり、入院中にも病院へ出向き話を聞くなどして情報を得ている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	かかりつけ医については、機会があれば会話をするなど、日頃から関係づくりの向上に努めている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	看護師訪問の際に気づいたことや、疑問に思う事があれば報告しアドバイスを得ている、場合によってはかかりつけ医より指示を受けた看護師から医療処置を受けることもある				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間いつでも連絡が取れ、相談できる体制ができており、看護師からかかりつけ医への連携も確立している				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	記録や申し送りなどで情報を共有し、又特変事には速やか状態をに報告するなど早期発見・治療に努めている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬情書をに目を通し把握に努めている、疑問点があれば薬剤師に聞くなど、理解に努めている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬の一包化により指示通りに服薬できるようになっている、服薬時には職員2人で確認を行い、服薬後は薬ケースをチェックするなど、誤薬・飲み忘れ防止に努めている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後の状態や、効果を観察し副作用がもたらす症状を記録に残し、薬剤師や看護師に報告している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	血圧が上昇したことや、眠りが深くなったことなど本人の状態の経過や変化を記録し看護師・医師に報告・相談を行い家族にも報告している				

愛媛県グループホームひめ椿

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に本人・家族の意向をお聞きしている。又状態変化の段階ごとに都度話し合いを行い納得していただいたうえで次の段階への準備(情報提供)のお声掛けをしている				重度化した場合には、ほとんどの利用者が併設の介護老人保健施設に移ってもらっているが、直近で1名の看取り支援を行っている。家族の要望に沿い、医師や職員と検討しながら方針を共有することで、家族に納得してもらえる支援となったようである。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	重度化していく中で本人・家族に意向をお聞きした上で、管理者、ケアマネが看護師、かかりつけ医に報告し相談しながら方針を決定している	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	ユニット会で職員の各々の思いを共有しあった上で、管理者は見極めを行っている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に管理者、ケアマネが十分な説明を行っている、又重度化していく段階で都度話し合いを行い、理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期に関して、家族の意向を踏まえたうえでかかりつけ医との連携を取りながら、本人に沿った医療ケアが受けられるよう日頃より管理者、ケアマネが他施設との関係構築に努めている				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いや状況もそれぞれであり、慎重に対応する事を心掛け又少しでも支えになれる様努めている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	定期的に勉強会に参加し学んでいる				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	勉強会で予防や対応の仕方を学び、又感染予防マニュアルに職員全員が目を通して日頃からの訓練は行っていない				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	職員や利用者は全員が予防接種を受けている。ニュースや医療機関、職員から情報を入手し把握に努めている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報入手に努め感染者などに対しては居室対応を厳守し、面会制限を行うなど家族に協力を得ている				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがいを徹底しており、来訪者にはマスク着用手指アルコール消毒の協力を得ている、又面会制限にて感染予防の拡大防止に努めている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には家族の様子や思いに耳を傾け、家族と一緒に支えていける関係を構築できるように努めている				毎年恒例の納涼祭には家族や地域住民の参加がある。年間行事の外出や外食などに家族が参加することもある。遠方の家族を含め毎月「便り」を発行し、担当職員から利用者の様子をコメント欄に記入して送付している。事業所の事柄は十分報告できていないところもあり、今後は気をつけたいと管理者は認識している。家族から気がかりなことや意見等が気軽に相談できるよう、職員は声かけや雰囲気づくりを大切にしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	不愉快な思いをされる事のない様、気持ちの良い対応や本人と居室で居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや環境整備に努めている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	内容に応じて参加の声掛けや、月1回の便りで案内を行っている	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月1回便りを送付し、本人の近況報告を行っている、又疎遠になっている家族には便りや電話にて来訪のお願いをしている	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	面会時や電話をかけた際、家族の思いをお聞きするなど家族が思いを伝えやすくなるような信頼関係が築けるように努めている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人の状態の変化の様子を都度報告し理解して頂いた上で、本人とより良い関係を続けられるよう、絆や繋がりを大切に思っている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事については便りや面会時に報告しているが、面会に来られた家族に口頭で伝えている	×		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	夕涼みやお花見などの行事参加への案内はしているが、不参加の方が多く家族同士の交流は図れていない				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	一人一人に起こり得るリスクについて、家族に説明しており、本人が安心、安楽に暮らせるよう話し合っている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族来訪時に近況を報告し、気軽に相談していただける様な言葉がけや雰囲気作りに努めている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	管理者が具体的な説明を行っている、内容変更の際も理解、納得が得られるよう説明を行っている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居に至った過程を具体的に説明し理解、納得を得た上で退居先に移れるよう支援している、又必要時には情報提供を行っている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	管理者が説明を行い同意を得ている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議を通じて説明を行い理解を図っている	/	○	/	地域の防災訓練や夏祭りに参加して、近隣住民から「お世話になった」とお礼に手作りのパンをもらうこともあるなど交流が深まっている。納涼祭には事業所から屋台などの出店をするなど、子どもたちにも好評となっている。散歩時には積極的に挨拶を交わすなど、職員は地域とのつながりができるよう努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	地域の防災訓練や夏祭りに参加したり、又夏祭りでは屋台を出すなど地域との関係が深まる様努めている、挨拶を積極的に行っている	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	挨拶を交わす程度である	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	施設の夕涼み会の時、地域の人に声掛けし参加して頂いている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	祭りに参加した時や戸外の散歩時に言葉を交わしているが、日常的なお付き合いはできていない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	△	地域の夏祭りや防災訓練への参加のご案内を頂いたり秋祭りには施設まで神輿や獅子舞を見せて下さり楽しませて頂いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	民生委員や町内会の方の協力を頂きながら、安全で豊かで、楽しみのある暮らしを提供できるように努めている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	地域の防災訓練に参加したり、同一法人施設と合同行事を行っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	町内会の方や民生委員、地域包括や行政の方、利用者やその家族に参加して頂いている	×	/	△	運営推進会議には町内会の住民や民生委員、利用者の参加を得て開催しているが、固定した家族の参加となっている。会議はおやつを試食会などを取り入れる工夫をしながら開催しており、外部評価や目標達成計画などの取組み状況を報告し、参加者から意見や感想をもらえるよう努めている。今後は他の家族にも会議の内容を職員から分かりやすく説明を行い、理解を得ながらより良い会議になるような取組みを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	利用者の現状や施設状況、行事報告を行っている、又外部評価の内容や取り組み状況についても報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	地域の方や包括行政の方の意見を参考に、日々の取り組みやサービスの向上に活かし状況や結果を報告している	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出席しやすい日程や時間帯を考慮し予定を立てているテーマによっては同一法人施設の管理者等に参加を案内することもある	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	作成し施設内に提示している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅳ.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	「地域との交流」を理念の一つとして挙げ各自が理解し実践に繋がる様日常的に取り組んでいる				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を伝えることはできていないが入居前の説明で地域密着であるという説明は行っている	×	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	月1回、法人内研修を行い、参加を促しており、又法人内研修については、同一法人施設より情報を得たり自己研鑽に任せている				代表者は往診で頻回に事業所を訪れており、気さくな人柄で利用者と一緒にレクリエーションを楽しむこともある。職員の有給休暇や夏季・冬季休暇、希望休など取り入れ、働きやすい環境づくりに努めている。職員は年1回ストレスチェックを行い、自分のストレス度を確認している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修で得た知識やスキルを実践したり指導する事で職員がスキルアップできるように努めている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職場環境や条件の整備について、定期的に見直しをし各自が向上心をもって働ける様努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	同一法人内の交流が殆どで外部の研修に参加できていないのが現状である				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスチェックテストを実施し管理者や職員のより良環境づくりに取り組んでいる	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会に参加して学んだり、職員で相互チェックを行うなど虐待や不適切なケアのない様努めている				管理者は不適切な言動がある場合には、その都度職員を注意するようにしている。法人の内部研修で勉強する機会を持ち、職員は不適切なケア等に対する対応方法や手順について共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	都度話し合ったり、ユニット会で職員全員で振り返ったり話し合いをしている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員一人一人が気を付け、又相互チェックを行い虐待や不適切なケアが見逃ごされない様努めている			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスチェックテストを実施したり、管理者は職員の疲労やストレスが利用者のケアに影響していないか日常的に職員の言動に注意を払っている				
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	勉強会に参加して学んだり身体拘束適正化委員会に全職員が参加し事例を基に話し合い正しく理解できる様努めている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ユニット会で利用者や状況に照らし合わせながら身体拘束にならないように話し合っている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族から要望があっても事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫を行っていることを説明し理解を図っている				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	成年後見制度については対象者がおりある程度理解できているが全てではない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	対象の方がおられ管理者・ケアマネが対応している、今後情報提供や相談に乗れるよう知識を深める様努めていきたい				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要な利用者には主に管理者が弁護士との連携を築いている				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し事務室に置いており緊急時に備えている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	勉強会で学んでいるが定期的訓練は行えていない				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書ヒヤリハットを提出し職員全員が目を通して、ユニット会にて原因を探り検討し再発防止に努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ユニット会で利用者一人一人から予想されるリスクや危険について検討し事故防止に努めている				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情対応マニュアルは作成しておらず都度管理者に報告し対応・方法について検討している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	速やかに管理者に報告し対応行い必要時には行政にも報告している、家族からの苦情については職員間で話し合い改善努めている				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して速やかに回答できる様職員間で話し合い納得を得られるよう相手の方にお伝えし、より良い関係になれる様努めている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	要望・苦情を直接お聞きしたり、日々の中での言葉や表情態度からくみ取り改善できるよう話し合っている			○	利用者には日常生活の中で要望を聞き、家族には面会時に意見や要望を遠慮なく伝えてもらえるよう、職員から声をかけ、雰囲気づくりに努めている。管理者も現場に出て働いており、職員とその都度話し合う機会が多く、ユニット会議でも意見を聞いている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	玄関に意見箱を設置し、要望苦情を伝えやすい様にしている、又面会時に要望をお聞きし改善に努めている	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入居時に苦情に関する公的な窓口の説明を行っているのみである				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	平日のほぼ毎日当事業所に来ており意見や要望を直接聞く機会があり、必要時職員が直接訴えることもある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の都合ではなくどうしたら利用者第一の支援をしていくのかその都度、又はユニット会で話し合いを行っている			○	

愛媛県グループホームひめ樟

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2階自己評価を実施し各々の改善向上に繋げている				運営推進会議の中で、外部評価の結果を報告しているが、目標達成計画などの取組み状況を継続的に報告できていない。どうすればモニターとして機能するのか職員間で話し合い、運営に活かせるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	課題の改善・解決に向けて職員間で意識統一を図っているが、改善しがたい点もある				
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	達成に向けて取り組もうと努めているがなかなか達成に至っていない				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	運営推進会議にて報告を行っているが継続して行っていない	×	△	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	評価結果、改善計画、指摘事項については報告しているが成果については議題にして行っていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	○	原子力災害以外はマニュアルを作成し周知している				法人事業所合同で年2回消防署立ち合い訓練と自主訓練を行っている。運営推進会議でテーマに取り上げ、家族と一緒に訓練に参加してもらったり、地域の防災訓練に参加したりして交流できるよう努めている。今後は事業所独自でも災害に対する危機感を持ち、地域住民等と日頃から連携が図られるような協力・支援体制の強化を期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	日中か夜間想定での訓練は行っているが様々な時間帯を想定した訓練の計画はできていない				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備については定期的に点検を行っているが備蓄品については同法人の管理に任せている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	同法人が地域との連携協定を結んでおりそれに従っている、又消火・防災訓練については消防署から指導を頂いている	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	地域の防災訓練に参加し、災害対策に取り組んでいる				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議にて感染症対策や当事業所のケアの取り組みについてお話しさせて頂き認知症についての理解が深まる様努めている				事業所の見学希望者の相談に対応することがあるが、特に相談支援は行っていない。地域の夏祭りや清掃活動に参加しているが、事業所として機能が果たせていない感がある。今後は事業所独自で各機関と積極的に関わりを持ち、地域活動を協働できるような取組みを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	入居相談時には対応している		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	△	当事業所の夕涼み会に地域の方の参加を募り交流の場として活用している				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	当事業所では行っていない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	△	管理者・ケアマネは連携が取れているが一般介護職は行えていない			△	